

1. はじめに

本論は、前論文の結果にもとづき秋田、盛岡、弘前の城址公園内の構造物に関するイメージ形成に各要因がどのような影響を与えているかを検討し、その要因の一般的傾向を把握するべく、数量化理論による分析を試みたものである。

2. 解析方法

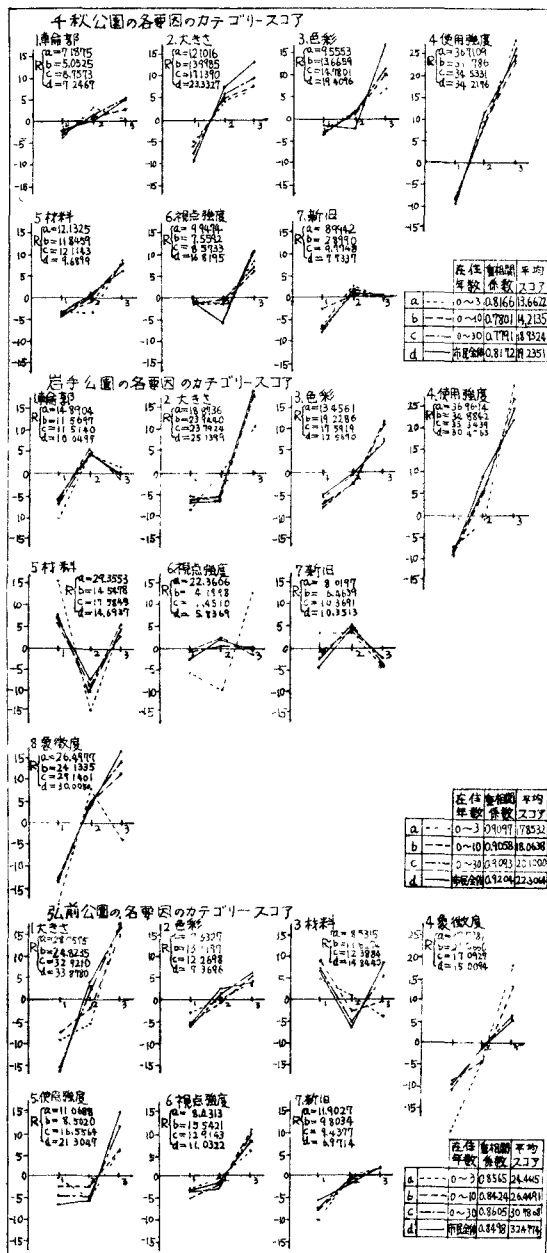
前論文のイメージ要因の独立性検定結果から、秋田公園では7要因、岩手公園では8要因、弘前公園では7要因を取り上げ、これらに関するカテゴリ－反応表を作成し各要因ごとにサンプルのクロス集計を行い、構造物の再生百分率を外的規準として分析した。また、イメージの時系列的な変化を明確にするために集計資料を、在住年数10年未満、30年未満、市民全体の3分類で解析した。なお各地域の在住年数別サンプル数は、秋田では67、176、273、盛岡では70、192、349、弘前では86、207、326となっている。さらに、在住年数の短いものについての要因の特性を明らかにする目的をもって、特に在住年数3年未満のものについても分析されている。

3. 解析結果と考察

解析結果を図-1に示す。結果の考察を次の順序で行う。まず、各公園に共通して主に要因変化が線型的なものと非線型的なものとの比較、次に各公園に共通して一般的にレンジの大きい要因、小さい要因、つまりイメージ形成上の基本となる要因とそうでないものの比較、次に各公園に共通して一般的に時系列的に変動の大きい要因変動の小さい要因、最後に各公園の特性を表わしている要因についての時系列的変動とその比較検討を行う。

1) 要因変化の線型的、非線型的の比較検討

大きさ、色彩、使用強度の要因は線型的に増大している。このことはこれらのカテゴリ－スコアとイメージ量の関係が線型的であるということであ



る。ただ千紬公園において色彩の要因で市民全体のカテゴリースコアに乱れがみられるのは、当公園の場合在住年数20年～40年の再生百分率が特に低かった事実と合わせ考えると、その年代の人々があまり公園に行っていないため視覚的の要因に乱れが出ているものと考えられる。このことは同様な現象が視点強度においてもスコアの乱れとなつて表われてくることから推測できる。また象徴度のスコアは線型にも非線型にもなり得ると思われるが一般に線型の傾向にある。岩手公園の象徴度の在住年数3年未満のカテゴリースコアが非線型になっているのは遺構が公園内の一般的ルートから離れさらにその規模も小さいため目立たないことのためと思われる。一方、非線型的な傾向を示すものに材料、新旧、視点強度がある。このことは材料の均なさがかえって記憶と関連したり新旧とイメージの関係の希薄さ、視点強度に関しては公園の規模などが原因となっているものと思われる。

2) イメージ形成上の基本となる要因、そうでない要因の比較検討

各公園とも共通してレンジが大きい要因は、大きさ、使用強度であるといえるであろう。次いで象徴度の要因が大きい。以上の3要因がイメージ形成の基本的要因であると思われる。その他の要因は主にレンジが小さい。例外としては、岩手公園の材料と視点強度の要因の在住年数3年未満のレンジである。公園内の新築されたばかりの図書館、古い悪臭を放つ動物舎などが主要なルート上にあることや、在住年数の短い市民は公園内の主要なルート周辺の構造物からイメージすることなどが主な原因であると思われる。

3) 時系列的に変動の大きい要因、小さい要因の比較検討

各公園で共通して時系列的に変動の大きい要因は、大きさ、使用強度、象徴度の3要因であるといえる。一方、変動のみられないものには輪郭、色彩の要因がある。大きさの要因が在住年数で変化するのは驚きであった。

4) 各公園の特性を表わしている要因についての時系列的変動と比較検討

各公園の、これらの要因の特色について着目してみよう。千紬公園の場合は、使用強度のレンジがその他のレンジよりかなり大きい。しかもその時系列的変動は他の公園に比べて小さい。したがって千紬公園においてはイメージは大部分使用強度によって決定されているといえよう。岩手公園の場合は、大きさ、使用強度、象徴度のレンジがかなり接近しているのが特徴的である。弘前公園では、在住年数が短い場合、大きさと象徴度の要因がイメージ形成にかなり影響を与えているが、在住年数が長くなると大きさと使用強度の要因がイメージ形成に影響をもつてくる。このことは遺構の量と遺構が公園内の主要なルートの周辺に位置しているためと思われる。

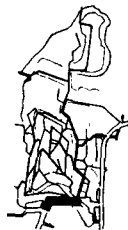
4. 結論

1) 大きさ、色彩、使用強度の要因は線型的に変化し、材料、新旧、視点強度の要因は非線型的に変化する。2) 大きさ、使用強度及び象徴度の要因がイメージ形成上の基本的要因であり、その他の要因はこれらの要因を補う。3) 大きさ、使用強度、象徴度の要因は時系列的変動が大きく、輪郭、色彩の要因は時系列的変動はない。4) 千紬公園はシンボル性

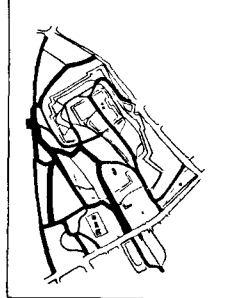
が小さく、弘前公園はシンボル性が大であり、岩手公園は両者の中間的性格をもつ。

最後に前論文の視点強度のスコアを決定する際に、資料としたルートマップの一例を、図-2に示す。

千紬公園



岩手公園



弘前公園

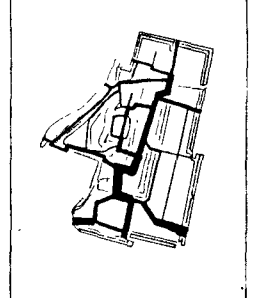


図-2 千紬・岩手・弘前3公園におけるルートマップ(市民全体)